

寺報みようとく

浄土真宗本願寺派妙徳寺
 (安芸教区志和組)
 発行責任 大江了証
 東広島市八本松町飯田六〇二
 電話〇八二四二八二一〇四



あけまして
おめでとう
あけまして
おめでとう

本年もどうぞよろしく
 お願い申し上げます。
 十二支は植物の循環の
 様子を表し、一番初めに
 ある「子」は本来「孳」と
 という字で、種子の中に
 新しい生命がきざし始め
 る状態を指しているのだ
 そうです。もともと十二
 支に動物の意味はなく、



お抹茶接待を終えての記念撮影。おとき接待の下組有志の皆さまとの記念撮影は機会を逃してしまいました。

護持会発足式におけるあいさつ

今日は報恩講によるこそお参りくださいました。本藤光宣と申します。総代を代表してお礼申し上げます。

今からご説明いたします護持会についてですが、妙徳寺の総代においてお寺の役割と運営のあり方を、住職と一緒に何度も話し合いを重ねてまいりました。

妙徳寺では仏教壮年会、仏教婦人会それ以外にも写経の会やお茶の会など様々に活動しています。しかし参加者が増えず、なかなか活動を広げることができず苦勞している状態です。一方都合により活動に参加はできないのだけれど、お寺の活動に協力はしたいという声も聞かせていただいています。

護持会とはお寺の活動と、お寺を支えようとする人をつなぐためのものであります。お金を集めるだけではなく、多くの皆様のご理解ご賛同を得る会をつくるのが目的であります。

どうぞご理解いただき、ご賛同賜りますことをお願いし、総代からの挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

令和元年11月25日

報恩講報告

当寺は毎年十一月二十

護持会報告



わらず、「いいことはお
 かけさま、わるいことは
 身から出たサビ」と感謝
 と自戒を大切に過ごす一
 年でありたいと思えます。

五日に報恩講をお勤めし
 ていただきます。親鸞さまの
 法事を年明け前にお勤め
 するため「お取り越し」
 とも言います。「おとき」
 と呼ばれる食事を用意し
 ていただく、近隣の寺院
 住職をお招きするなどの
 年で最も大切にしてある
 法要です。

たたくお接待く
 ださいました。
 ありがとうござ
 いました。
 当番地区以外の
 皆さまにもお掃
 除、内陣のお荘
 厳や本堂のお飾
 り等に、前日準
 備にたくさんご
 協力いただきま
 した。お抹茶接
 待の最後は報恩
 講の最後でした。
 いただきました。
 ご法話後でした。
 ので、ご講師の
 先生と一緒にゆ
 くり落ちていた
 きました。
 楽しんでいた
 きました。
 たくさんのお
 げを頂いて今年
 も無事お勤めす
 ることができました。
 うございました。

護持会報告

報恩講の「おとき」前
 の時間を利用して、護
 持会発足式を行いました。
 護持会長の挨拶(別欄
 に掲載)、副会長からの
 趣旨と護持会役員案の
 明、その後ご参集の皆
 さまにご了承いただき、
 もう一人の副会長から
 礼を申し上げ発足式を
 行いました。



報恩講での聴聞の様子。いいご法話のご縁でした。

発足式があつた報恩講
 の翌日、妙徳寺にこれま
 りご縁があつたご門徒、
 ご信徒の皆さまに向け
 て封書でご協力のお願
 いを郵送させていただきます。
 十二月十三日までの約
 半月の間、約四分の一
 さんから護持会への賛
 同をいただきました。ご
 賛同いただきましたこと
 を申し上げます。早急
 にご賛同者さまにお礼
 申し上げます。また締め
 切りである三月末日ま
 ださるご継続者さま
 今後は各々が護持会に
 関わり活動が活性化さ
 れることを期待されて
 ます。

行事予定

ご不明な点は
お問い合わせ下さい

大晦日 午後十一時半から

除夜会 (じよやえ)

元旦 午前十時より一時間半

修正会 (しゅうしようえ)

一月五日(日) 午後一時、午後六時半

六日(月) 午前九時、午後一時

御正忌法要 (おたんや)

講師 八本松町篠 本派布教使

岡本 法治 師

一月二十六日(日) 午後一時から午後五時

こども寺子屋

こども達と一緒にみんなで楽しみましょう

二月十一日(水) 午後二時、午後六時半

七日(木) 午前九時、午後一時

春彼岸会 (はるひがんえ)

講師 呉市川尻町 真光寺

寺西 龍象 師

十二月午後席で三寺参りの感謝状贈呈を予定

寺報について

護持会発足により、こ
 の寺報も少し役割を変え
 ることとなります。
 いままで住職一人の話
 に終始しておりましたが、

今回から各役員さんから寄稿や連続コラムも掲載することといたします。その他随時リニューアルできればと考えています。少しづつでも着実に、ご協力いただく皆さまと一緒に寺の活動ができればと思います。引き続き多くの皆さまのご理解を賜りますよう、重ねてお願いいたします。

一語法話

『正信偈の十二光』①

今回から総代の竹本さんに郷土の歴史についてのコラムをお願いしました。あらためて郷土のことを知ることは、ここに生活する私の喜びにつながります。毎回楽しみに読ませていただきました。と思います。

『藝州賀茂郡飯田村 独歩行』

竹本省三

其の一
此の地に凡そ永く棲んでいる人も、童から「どうして飯田なの？」と尋ねられて答えられる人はいないのでしょいか。実は私も分かりません。もう何年も文献を・歴史書を調べてみましたが、どこにも書いてありませんでした。

しかし慶長六（一六〇二）年の地詰帳に飯田村は六拾五町一反六畝八分、石高四百六拾四石一斗一升九合とあります。この頃の人口は書かれていませんが、幾星霜時は流れて安永三（一七七五）年には五三七人とあります。

普放無量無辺光
：超日月光照塵刹
阿弥陀仏はすべての人を救うためにどのようなお力を持たれた仏になられたのか？親鸞さまはそれの働きを十二の光と示してお教えください。つまり無量光、無辺光、無碍光、無對光、光炎王光、清浄光、歡喜光、智慧光、不斷光、難思光、無称光、超日月光の十二のお力の事です。それぞれどのような働きなのか、無量光から親鸞聖人の書かれたご和讃を通して味わっていきます。

智慧の光明はかりなし
有量の諸相ごとく
光暁かぶらぬものはなし
真実明に帰命せよ
ここで、無量とは何かと言いますと、「智慧の光明はかりなし」と言われていきます。つまり、智慧の光明が無量であるという事です。つまり、阿弥陀仏は無量の智慧を持たれた仏様なので、無量光と言われるのです。では、次に智慧にはどのような働きがあるのか、その真実明と言われている、智慧の光明によつて、私たちが

の自分に暗い愚痴の闇を照らし、ありのままの姿を明らかにしてくれたいとを言います。私たちは自分の姿が分からないために、間違いを繰り返す、同じ間違いを繰り返す、苦しみを繰り返す。阿弥陀仏はそんな私たちにありのままの姿を知らせ、自分の間違いに気付かせ、除こうとされていくのです。次に「有量の諸相」といふのは、阿弥陀仏は無量の智慧を持つておられるので、私たちが

抑、飯田村の「いわれ」はどこにあるのでしょうか。お隣の宗吉村、米満村、正力村、篠村も同様です。後に想像して意味を付けた村もありません。理由は村の古の出来事は「不知（わかりません）」と書き、私達は米作りに精を出し、忠義の限りを尽くしていますという姿勢が大切な時代だったからです。文久二（一八一九）年、村々で国郡志下調査出帳を藩に提出しています。広島藩では芸藩通史として遺しました。どの村も不知と書いています。私は歴史研究者ではありませんが、古文書の解説を生業として暮らすようになりました。人に尋ねたり、その土地を実際に歩いて調べたり、歴史研究家の講義を聴いたりしていると、各地の歴史から飯田村の歴史を紐解く鍵になることが分かつ

たのです。歴史は陸と海とまで淵源に繋がっているのです。調べた事が確かなものになった時は、活字にして皆さんにお示しすることにしています。毛利氏の発祥の地を取材し「毛利之泉」、或は浅野長晟が広島入府四百年を記念し今年に講演を行いました。今月の寺報から、子ども達からお年寄りまで分かりやすく楽しめる飯田村に関連した歴史を連載することになりました。親鸞聖人の御心と歴史そして農業に勤しむ凡夫の終始は、日々を疎かにし得ない営みと冥合すること存じ奉ります。（次号へ）



妙徳寺ホームページ
http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/
ホームページ内で行事予定を随時更新しています。

台同墓・墓地区
有縁の皆さんでおまもりしている合同墓と一般墓地があります。たくさんのお方に利用いただけます。



がどんな人間であつたとしても、ありのままの姿を明らかにして下されるという事です。ただし、私たちの自分には自惚れ強く、理想の自分が執着して、その姿が知られると自分の理想とかけ離れておれず、とても受け入れられず、阿弥陀仏は私たちに受け取れるように、まずはお取の光のようにゆつくりと順番に私たちにゆつくりと知らせてくれるのです。私には子どもが三人、それぞれ学校でいろいろな



学びをして自分自身振り返つてみると、学生の間の学びとはものごとの方々を学んだものであつて、それを土台に社会に出てからが本当の学びでありました。いろいろな経験を重ねて初めて本当の自分に向き合う事ができるのです。まだこれからの五十歳代、六十歳代についての学びは自分のだと思ひます。もし、ある日突然「あなたとは実はこのような者だぞ」と知らされても、取り乱さずばかりとは決してできないと思ひます。だからこそ、阿弥陀仏は様々な学びのご縁を通して、本当の自分の姿を少しずつ知らせてくれるのです。それはこそ暁の光のようにはたらきで。（次号へ）

志和組テレホン法話「みのりの電話」
433-4989 (しじゅうさんざん、しくはつく)

1月 1日～	報専坊	松島純以
1月 11日～	志和東	石川了真
1月 21日～	天龍寺	天野英昭
2月 1日～	光源寺	堀 雅美
2月 11日～	寿福寺	田中 真
2月 21日～	八本松篠	岡本法治
3月 1日～	報専坊	松島典子
3月 11日～	照栄寺	井口英隆
3月 21日～	長松寺	笠岡淳一

志和、八本松川上地区の本派寺院13カ寺のテレホン法話です。3分程度のお話を24時間いつでもお聞きいただけます。ぜひ、電話でもお聴聞してください。

「写経の会」開催予定日

1月 25日 (土)	午後2時より	／	24日 (金)	午後2時より
2月 8日 (土)	午後2時より	／	28日 (金)	午後2時より
3月 14日 (土)	午後2時より	／	27日 (金)	午後2時より

申し込みは 金曜日の部代表_西本さん(428-2466)、土曜日の部代表_廣川さん(428-5935)または妙徳寺へご連絡下さい。

「妙徳寺仏教壮年会例会」開催予定日

1月 11日 (土)	午後6時から新年会
2月 8日 (土)	午後7時より定例会
3月 14日 (土)	午後7時より定例会

毎月第2土曜日午後7時開催を原則としています。

「おみのりサロン」開催予定日

1月 26日 (日)	午後1時より (こども寺子屋と併催します)
2月 10日 (月)	午後2時より1時間半 (『大乘』講読会と座談会など)
3月 9日 (月)	午後2時より1時間半 (『大乘』講読会と座談会など)

「お茶の会」開催予定日 (参加者募集中、ご連絡ください)
1/18 (土) 午後2時より。以降の予定は電話かホームページでご確認ください。